2019 年度(平成 31 年度)

地域における地球温暖化防止活動促進事業（環境省）

地球温暖化防止活動を行う民間団体等の活動実態調査報告書

令和２年２月

一般社団法人 環境創造研究センター

目　　次

調査の実施概要 …… 1

【ヒアリング対象団体①】中部大学 ESD エコマネーチーム …… 2

【ヒアリング対象団体②】日進 COOL CHOICE 語り部の会 …… 9

調査の実施概要

(1)　調査の目的

本調査は、環境省の「地域における地球温暖化防止活動促進事業」の一環として、愛知県において、地球温暖化対策関連の活動に取り組む民間団体等（企業除く）の活動内容、活動状況について把握することを目的に実施した。

調査結果については、今回の調査団体の活動が広く認知されるようウェブサイト等での公開・紹介を行い、関係機関等への情報提供も実施する。

(2)　調査実施概要

調査実施主体	愛知県地球温暖化防止活動推進センター （一般社団法人環境創造研究所）	
調査対象	県内で活動する民間団体　２団体 ①　中部大学 ESD エコマネーチーム ②　日進 COOL CHOICE 語り部の会	
調査方法	調査方法	・各団体のリーダー等の活動の中心人物に対して１時間程度のヒアリングによる調査を行った。 ・調査後、調査結果のとりまとめ内容を各ヒアリング対象者に確認いただいた。
	調査時期	・ヒアリング①：令和２年１月 22 日（水） ・ヒアリング②：令和２年１月 27 日（月）

(3)　調査項目

●団体の活動内容、活動状況
●構成員等の人数、構成
●活動の詳細（内容、活動頻度など）
●活動による効果・影響
●活動上の課題
●行政・企業・ほかのＮＰＯ等民間団体との連携状況・連携の可能性
●行政・企業等との連携・協力において課題となっていること
●行政・企業、愛知県センター等に期待したいこと　など

【ヒアリング対象団体①】中部大学 ESD エコマネーチーム

団体の概要・設立目的等	中部大学 ESD エコマネーチーム（伊藤佳世ゼミナール）は、持続可能な開発を担う人材の育成を目標とし、SDGs と超スマート社会分野の国際標準化に焦点をあて、国際標準化を学び、教材を開発し、産学官民連携活動を展開している。
設　立	2009 年
構成員	中部大学　経営情報学部　経営総合学科 ESD エコマネーチーム １年生～４年生（おおよそ 100 名）、３年生が中心となって活動。
主な活動内容	・環境マネジメント分野の標準化教育。「標準を使う、作る、教える」を通じた環境人材育成と標準化人材育成。 ・SDGs や気候変動リスクをはじめ、環境分野に関わるあらゆる社会課題への対応策について手軽に学べる教材の開発。 ・行政、産業界、中高大との連携による標準化教室の実施（開発した教材の体験機会の提供）。
主な活動場所、連絡先	●中部大学　経営情報学部 経営総合学科（伊藤佳世准教授） 春日井市松本町 1200 TEL（0568）51-9968

（エコマネーチーム・伊藤佳世ゼミナールの目指すもの）

- 中部大学 ESD エコマネーチームは、持続可能な社会を担う人材の育成を達成目標としており、環境マネジメント分野の標準化教育として、「標準を使う、作る、教える」を通じた環境人材育成と標準化人材育成に取り組んでいる。
- 標準とは、ISO などの国際標準のこと。目標は環境の分野に関わる標準、ルールを作る人材を育てることであり、まずその第一歩として、今ある国際標準、ルールについて学び、それを教える人材の育成に取り組んでいる。

（エコマネーチームの取り組み内容）

- 2009 年から活動を始め、今年で 10 年目となる。
- 毎年、１年生～４年生までおよそ 100 名が在籍し、３年生（１５名程度）が中心となって活動している。
- 経営情報学部の学生の 9 割が男子。今年度エコマネーチームの３年生では女子は 1 名。SDGs には女性に関わる課題もあり、女性の視点が必要。女子を３割くらいまで増やしたい。
- エコマネーチームでは、毎年、SDGs や気候変動リスクをはじめ、環境分野に関わるあらゆる社会課題のなかから新しいテーマを決め、その対応策について手軽に学べる教材（ボードゲーム、カードゲームなど）の作成に取り組んでいる。
- テーマは、毎年、前年の３月に学生によるコンペを実施して１～２つ決めている。その後、３月～１２月までの 9～10 か月間かけて教材づくりに取り組んでいる。テーマ決めに際して、伊藤准教授はニーズがあるテーマかどうかについてコメントする程度で、基本的に学生が決めている。
- 教材は、中小企業の支援を目的としており、社会で実際に使える高いレベルを目指している。そのため、学生にとってハードルは高いが准教授の専門家としての指導と見守りのもと、結果として社会に通用する教材を作成できている。

- 開発した教材は、行政や民間企業が主催するイベントに出展したり、中学生、高校生を対象に行う授業で使用するなど、子供から企業の担当者まで幅広い年代、所属の人が体験する機会を提供している。
- SDGs や地球温暖化問題をはじめ、環境に関わる教材に対するニーズは、企業だけでなく、小中学校などの教育現場においても高くなっている。教材は企業を対象に作成したものであり、内容、用語などは子どもには難しいため、教材の実演や授業などで教える際には、子どもに分りやすい説明を行うようにしている。
- 多くの学生は、就職（公務員、サービス業、農業など様々）後、企業の CSR や教育の担当などの即戦力として活躍している。

年度	開発した教材	テーマ
2019	標準化ゲーム「まもるくん　Guard the Risk」	SDGS＋ISO31000（リスクマネジメントシステム）
	標準化ゲーム「食プロ　Food professional」	SDGs＋ISO22000（食品安全マネジメントシステム）
2018	標準化ゲーム「世界を救え　Save the world」	SDGｓ＋超スマート社会
	標準化ゲーム「世界を変えるには　You can change the world」	SDGs＋ISO20400（持続可能な調達）
2017	標準化ゲーム「エネマスくん　Expert of Energy」	ISO50001（エネルギーマネジメントシステム）
	標準化ゲーム「私たちの未来～Our future」	消費者向け標準化教育
2016	標準化ゲーム「労働ウォッチ」	ISO45001（労働安全衛生マネジメントシステム）
2015	標準化ゲーム「ものプロ」	ISO19001（品質マネジメントシステム）
	標準化ゲーム「もし社長だったら」を改訂	ISO14001（環境ネジメントシステム）
2014	標準化ゲーム「せきにん」	ISO26000（社会的責任）
2013	標準化ゲーム「会社を守ろう」	ISO22301（事業継続マネジメントシステム）
2012	もし社長だったら	ISO14001（環境マネジメントシステム）
2011	標準って何	環境と安全の分野における図記号とラベル

(2019 年度の取り組みについて：学生の声)

- 学生は、国際標準について学びたい、やりがいがありそう、地域との関わりについて学べそうといった志望動機でゼミを選択しており、社会に通用する高いレベルの教材づくりに取り組んでいる。
- 2019 年度は、リスクマネジメントをテーマとする標準化ゲーム「まもるくん」と食品安全やエシカル消費をテーマとする標準化ゲーム「食プロ」を開発した。
- リスクマネジメントについては、以前に事業継続に関わる教材を作った際に地震を取り上げたが、台風、大雨といった異常気象による災害や情報セキュリティの問題など、近年、様々な問題が起きており、産業界からのニーズが高く、それに対応できるものをつくることを目指し取り上げることとなった。開発した教材に対しては、使ってみたいという企業の声が多くなっている。

- 食品安全、エシカル消費をテーマとする教材は、主に消費者向けの教材として作成した。消費者の立場で企業は何をやっているのかを監視したり、エシカル（「倫理的」「道徳上」という意味。「倫理的」＝「環境保全や社会貢献」という意味でも使われる）商品を選択してもらうという観点で教材をつくった。
- 教材は、イベントで気軽に体験してもらうための５～10 分程度で遊べるゲームと、企業において２～３時間かけてじっくり学ぶためのゲームの２タイプを作成した。
- ほぼ毎月何らかのイベントに出展し、1 年間に２つの教材で累計 14,058 人に体験してもらった。毎年 12 月に東京ビッグサイトで開催されるエコプロ（環境配慮型製品・サービス（エコプロダクツ・エコサービス）では、6,096 人に体験してもらうことができた。

（企業、行政、民間団体等との関わり）

- 学生は企業や専門家とやり取りしながら教材の開発を進めるとともに、教材の完成後は行政や企業が開催するイベントに出展したり、中学生、高校生を対象に授業を行ったりするなど、教材の体験の場を提供している。
- 行政関係では、愛知県、名古屋市、日進市、春日井市と連携してイベントに出展している。
- 産業界では、日本青年会議所（愛知ブロック、刈谷）、春日井商工会議所、グリーン購入ネットワーク、エコステージと連携し、教材を用いた標準化教育を実施した。
- 民間企業では、イオン、トヨタ、カゴメと連携している。この他、ヤクルトとも連携の予定がある。SDGs に取り組みたいという企業のニーズは高いと感じている。
- 開発した教材の最終版の実演の機会として、毎年 12 月に東京ビッグサイトで開催されているエコプロ（環境配慮型製品・サービス（エコプロダクツ・エコサービス）に関する一般向け展示会）に 2010 年から毎年出展している。
- 学校間の連携も積極的に行っている。主に SDGs 推進校と連携し、作成した教材を使って、中学校や高等学校（2019 年度は春日丘中学校、市邨高校、名古屋国際高校、愛知商業高校で実施）で授業を行っている。学生が先生になって子どもたちに教えることとなり、学生にとってとてもいい勉強になっている。
- 2018 年度に開発した、SDGs とスマート社会をテーマとした標準化ゲーム「世界を救え」は、水俣市やグリーン購入ネットワークで使ってもらっている。また、刈谷青年会議所に所属している 70 社を対象に実施することになっている。
- 中小企業には「SDGs に取り組みたいという気持ちはあるが何をしていいかわからない」という声が多くある。そこで、SDGs をめぐって、それぞれの企業で何ができるのか、行政であれば総合計画に何をどう取り入れていくのかを考えていくワークショップを開催している。

- 中部大学では、学長が認定する「地域創成メディエーター」という資格がある。地域創成メディエーターとは、地域との媒介を担い、地域活動を支援する人材であり、エコマネーチームの学生は環境系の分野の地域創成メディエーターの取得を目指している。

（今後の課題、企業や行政等に期待すること）

- 多くの大学で SDGs に関わる人材の育成に取り組んでいるが、産業界の側にその窓口が少ない。特に中小企業に少ないので、窓口をつくってほしい。そうすると、学生は大学で学んだことを社会で生かすことができる。SDGs を学んだ学生が活躍できる場がほしい。中小企業にそうした窓口があれば地元に就職できるようになる。

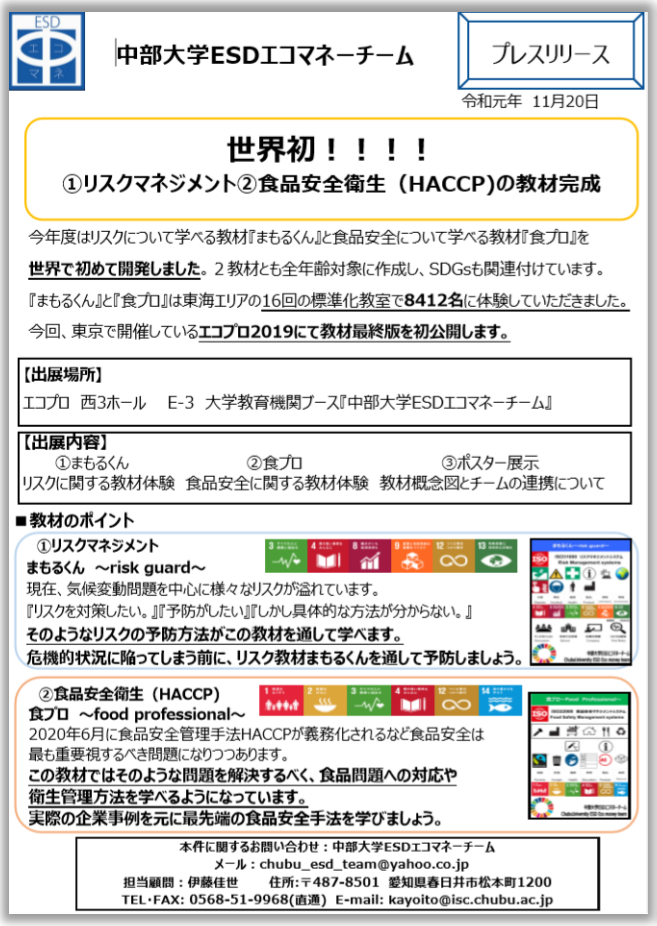
- イベントへの出展（教材の体験機会の提供）

イベント名	開催場所等	開催時期	備　　考
エコプロ	東京ビッグサイト	毎年 12 月	2010 年より毎年出展
レッツエコアクション in Aichi	愛知県内	毎年 11 月	2010 年より毎年出展
消費生活フェア	名古屋市	毎年 11 月	2016 年より毎年出展
環境デーなごや	名古屋市	毎年９月	2010 年より毎年出展
かすがいビジネスフォーラム	春日井市	毎年 11 月	2015 年より毎年出展
わいわいカーニバル	〃	毎年 5 月	2015 年より毎年出展
かすがいまつり	〃	毎年 10 月	2012 年より毎年出展
にっしんわいわいフェスティバル	日進市	毎年７月	2014 年より毎年出展
中部大学フェア	中部大学	毎年 9 月	2010 年より毎年出展

様々なイベントブースへの出展

エコプロ２０１９

名古屋国際高校との連携授業



中部大学ESDエコマネーチーム

プレスリリース

令和元年　11月20日

世界初！！！！

①リスクマネジメント②食品安全衛生（HACCP)の教材完成

今年度はリスクについて学べる教材『まもるくん』と食品安全について学べる教材『食プロ』を**世界で初めて開発しました。**2 教材とも全年齢対象に作成し、SDGsも関連付けています。

『まもるくん』と『食プロ』は東海エリアの16回の標準化教室で**8412名**に体験していただきました。

今回、東京で開催している**エコプロ2019にて教材最終版を初公開します。**

【出展場所】
エコプロ　西3ホール　E-3　大学教育機関ブース『中部大学ESDエコマネーチーム』

【出展内容】

①まもるくん	②食プロ	③ポスター展示
リスクに関する教材体験	食品安全に関する教材体験	教材概念図とチームの連携について

■教材のポイント

①リスクマネジメント
まもるくん　～risk guard～
現在、気候変動問題を中心に様々なリスクが溢れています。
『リスクを対策したい。』『予防がしたい』『しかし具体的な方法が分からない。』
そのようなリスクの予防方法がこの教材を通して学べます。
危機的状況に陥ってしまう前に、リスク教材まもるくんを通して予防しましょう。

②食品安全衛生（HACCP）
食プロ　～food professional～
2020年6月に食品安全管理手法HACCPが義務化されるなど食品安全は最も重要視するべき問題になりつつあります。
この教材ではそのような問題を解決するべく、食品問題への対応や衛生管理方法を学べるようになっています。
実際の企業事例を元に最先端の食品安全手法を学びましょう。

本件に関するお問い合わせ：中部大学ESDエコマネーチーム
メール：chubu_esd_team@yahoo.co.jp
担当顧問：伊藤佳世　　住所:〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200
TEL･FAX: 0568-51-9968(直通) E-mail: kayoito@isc.chubu.ac.jp

■2019年度の連携

専門家連携

教材の質を担保するために専門家と連携しています。

経済産業省、日本規格協会、NACS東日本支部、農林水産省東海農政局、製品評価技術基盤機構へ直接訪問し、アドバイスをいただきました。

専門家の所へ訪問をする度に、教材の改訂をしております。

エコプロ2019では専門家によるアドバイスを反映させた最終版を実演しています。

日本規格協会での実演の様子

経済産業省での実演の様子

産業界との連携

SDGsをテーマに日本青年会議所（愛知ブロック、刈谷）、春日井商工会議所、グリーン購入ネットワーク、エコステージと連携し、教材を用いた標準化教室を実施しました。

エコステージと連携して主催した標準化教室の様子

行政機関の連携

愛知県、名古屋市、春日井市、日進市と連携しながらSDGsを推進しています。2019年度は16個のイベントで8412名に実演しました。

教材体験者からは『授業で活用して欲しい』『自分も環境活動をしているので参考にしたい』などのお言葉をいただいております。

イベント時の実演風景

中高大連携

SDGs推進校と連携し、中高生向けの標準化授業を春日丘中学校、市邨高校、名古屋国際高校、愛知商業高校で実施しました。

大学生と中高生が連携することで普段では経験できない異なる視野と意見を取り入れることが出来ました。

市邨高校で訪問授業の様子

名古屋国際高校での授業の様子

■**中部大学ESDエコマネーチームとは**･･･2009年から活動をしており、持続可能な開発を担う人材になることを目的としています。SDGsと超スマート社会分野の国際標準化に焦点をあて、国際標準化を学び、教材を開発し、産学官民連携活動を展開しています。

【ヒアリング対象団体②】日進 COOL CHOICE 語り部の会

団体の概要・設立目的等	地球温暖化防止や COOL CHOICE を推進していくため、未来を担う若者（高校生）に対して、自らの経験や考えを語り継ぐための活動を行う。
設　立	2019 年
構成員	日進市在住 4 名（環境に関わる市民活動家）
主な事業内容	日進市で環境系の活動を行っている高齢者が、地球温暖化防止のための活動や COOL CHOICE を推進するために「日進 COOL CHOICE 語り部の会」を組織し、未来を担う若者（高校生）に対して、自らの経験や考えを語り継ぐための勉強会を行っている。
主な活動場所、連絡先	●日進 COOLCHOICE 語り部の会 日進市蟹甲町池下 268 番地 TEL（0561）73-7111　（日進市役所内）

（これまでの個々の活動と「COOL CHOICE 語り部の会」に参加した経緯）

Iz さん：

- ふだんは「日進里山リーダー会」に所属し、20～30 人のメンバーで市内の里山を整備、再生する活動に参加するとともに、「天白川でたのしみ隊」に参加し、天白川の環境保全と啓発活動を行っている。また、生物多様性条約の COP10 のときに、「生物多様性日進市民協議会」を立ち上げ、自然の保全に関わる活動を行っている。
- 自然の保全に関わる活動をするなかで、地球温暖化に対する市民の関心はとても高いと感じている。
- COOL CHOICE や温暖化防止の取り組みは、普段取り組んでいる自然の保護・保全活動の延長にあると考え「COOL CHOICE 語り部の会」に参加した。
- また、これまで戦争の語り部としての活動も行ってきた。そうしたなかで、過去の 100 年よりもこれからのことが大事であり、若い人に伝えていくことが重要と考え「COOL CHOICE 語り部の会」に参加した。

Ki さん：

- ふだんは「日進岩藤川自然観察会」に所属している。環境問題が悪化した 40 年ほど前に、環境保全のために自分にできることに取り組もうと考え、愛知県の自然観察指導員の講習を受講し、自ら団体を設立して活動を開始した。現在、5 人くらいが所属している。
- 市内在住の親子や高齢者を対象に自然観察会を開催したり、小学校の生活科の出前授業、展示会、ESD の観察会などを行ったりしている。参加者と自然を味わうことの楽しさを共有しながら、自然の大切さに気づき、多くの生きものを尊重し、ともに生きる仲間と考えてほしいと伝えている。
- 地球温暖化防止や環境保全の取り組みは、大人に伝えることも大切であるが、若者に伝えることが重要だと考え、「COOL CHOICE 語り部の会」に参加した。

Is さん：

- ふだんは「東部丘陵を守る連絡会」に所属している。また、日進市の環境基本計画を策定する際に設立された「にっしん市民環境ネット」のなかの「農育プロジェクト」に所属している。子育てを行うなかで、安全・安心な食べ物を子どもに食べさせたいと思ったことをきっかけとして、農業に取り組んだり、食の問題や健康、農業について考えたりするようになり、現在の活動につながった。
- 地域の若い家族に有機・無農薬のお米作りや野菜作りを教えたり、自然観察会などを行ったりしながら、耕作放棄地の活用、自然の保全に取り組むとともに、自然の大切さを伝える活動を行っている。その他、平和の大切さを伝える活動も行っている。
- 平和の大切さを伝える活動を行うなかで、なかなか次世代につながっていかないと感じていた。若い人に大切なことを伝える機会がほしいと考えていたことから、高校生に語り継ぐ取り組みである「COOL CHOICE 語り部の会」に参加した。

Ku さん：

- ふだんは「にっしん図書館サポーターズ」に所属し、読み聞かせや読書交流会などを行っている。本が好きであることをきっかけとして、若いお母さんたちに、自分の目で子どものための本を選んだり、読み聞かせを行う方法を伝える活動を行っている。
- 「COOL CHOICE 語り部の会」へは、地球温暖化防止の取り組みについて自ら勉強をしたいと考え参加した。

（COOL CHOICE をめぐって日頃感じている課題）

- COOL CHOICE という言葉が一般市民にはわかりにくいのではないか。「地球温暖化防止のためにいいことをしていますか」など、もっとストレートに言った方がわかりやすいのではないか。
- 省エネを行ったときの CO_2 の削減量がトン単位で表示されることが多いが、トン数で言われてもよくわからない。市民が分かりやすい伝え方にすべき。
- カタカナの言葉が多い。「COOL」と言われると、賢いというより冷たいというイメージがある。「COOL CHOICE」という言葉の意味がわかりにくいがために伝わらない、広がりにくいのではないか。COOL CHOICE をめぐって、市民ひとりひとりができることはいろいろあるはずなのに、伝え方が悪いためにそれができていないように感じる。
- 省エネによる CO_2 の削減量はトン単位ではなく、グラムの方が分かりやすい。
- 日本の企業はプラスチックの再生技術があるからプラスチック製品が増えることを気にしていないようなところがあるが、それは間違っているのではないか。
- 温暖化の影響を一番受けるのは生物である。人間は冷房を使って対策できるが、動物・植物はそれができない。もっと生物に目を向ける必要がある。自然や生物を見ることで温暖化の影響を認識することができるのではないか。

- 現代は便利になりすぎ。例えば冷房を減らしてうちわを使うようにしてもいいのではないか。本当に現在のような便利さが必要かと感じてしまうことがある。生活を見直すことが必要ではないか。
- プラスチック容器の回収を行ってはいるが、世の中にはどんどんプラスチック製品が増えている。これでは意味がないのではないか。プラスチックを生活のなかで使わなくても済む方法を考えなくてはならないのではないか。
- COOL CHOICE、つまり賢い選択をするための情報、資料が十分出されていないのではないかと感じる。
- 情報の隠蔽や、意図的に情報を出しすぎていることがあるように感じられる。

（個人の暮らしのなかで取り組んでいること）

Iz さん

- 生ごみは畑で肥料として使っている。スイカの皮のような水分の多いものは燃やすのがたいへんなので、ごみに出すべきではないと考えている。
- 野菜は畑で作っており、購入していない。

Ki さん

- 生ごみは捨てずに肥料にしている。
- 雨水も貯めて利用できるようにしたいと考えている。
- プラスチックのごみを減らしたいが、プラスチック容器に入れられているものが多すぎる。

Is さん：

- 食事は手づくりを基本としており、加工品は買わない。
- 野菜も畑で作っており、あまり買わない。
- 生ごみは畑で肥料として使っている。
- 洋服は古くなったらカットして食器の汚れを拭きとることに利用し、石鹸を使わないようにしている。

Ku さん：

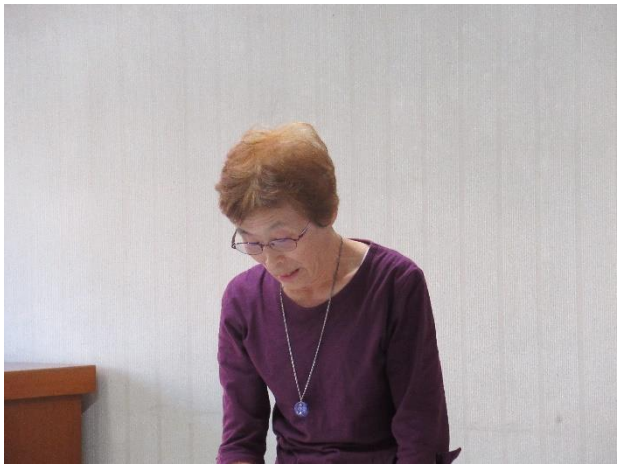
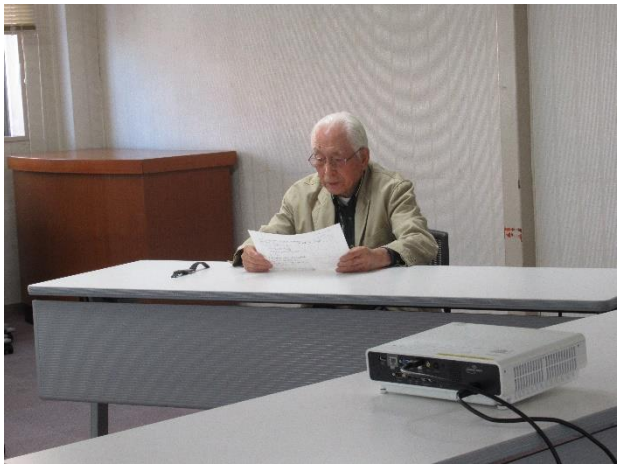
- 買い物の際、添加物が使われているものは買わないようにしている。
- 図書館では紙を使うことが多いが、その際には裏紙を使うようにしている。

（若者に伝えてきたこと、伝えたいこと）

- 若者には、自分の子どもの世代がたいへんになることを伝えたい。
- COOL CHOICE を若い世代に伝えていくためには、環境行政と教育行政が一体になって取り組むことが必要ではないか。教科書に書いたり、学校で教えていくことが重要と考える。

- 今の子どもは楽をしすぎてはいないか。「苦」から「楽」へ行くことはできるが、「楽」から「苦」へいくことは難しい。未来につないでいくためには、楽ばかり考えていてはいけない。
- 本やパソコン上で見るだけでわかったつもりになるのではなく、体験することが大事であることを伝えたい。
- 野菜づくり、米づくりからいろいろなことが見えてくる。夏の暑さなどの季節を体験したり、田んぼにいるいろいろな生物とふれあったり、大豆から味噌、米からみりんをつくったりするなかで、若い人たちに生きる力をつけてもらいたい。
- インターネットではなく本を読むことから始めるようにしてほしい。本を読むことが地球温暖化や環境問題に関心を持つきっかけとなり、体験や行動に結びついていくとよい。

（行政、企業等に期待すること）

- 地球温暖化防止や COOL CHOICE について分かりやすい伝え方で進めてほしい。CO_2 削減の効果も、何をやったらどれだけ減るのかグラム単位で示すことも考えてほしい。
- 市はコンポストの補助金を増やしてほしい。
- 環境行政と教育行政の連携を進めてほしい。縦割り行政からの脱却を。
- 行政、企業はきちんと情報を出してほしい。食品の表示もきちんと行ってほしい。
- 正確な情報がないと、市民は何を選択していいかわからない。COOL CHOICE は進まない。
- 行政（日進市）は、生ごみの堆肥化に取り組んでほしい。
- 家電製品は壊れても修理して使うなど、もったいない精神を大事にしてほしい。壊れた家電を修理することを行政で考えてほしい。
- プラスチック製品を竹製品に変えていくこと、竹を活用することを考えてほしい。

今週の予定
予　定
(月)
(火)
(水)
(木)
(金)
(土)
(日)